

[整備効果③]更なる安全性・信頼性の向上

- 暫定2車線区間では、一度事故が発生すると重大事故になる可能性が高くなります。
- また、大雪時には、登坂不能車両のための通行止めが発生するリスクが高くなります。
- さらに、設備点検や舗装補修などに加え、橋梁・トンネルなどの更新工事に伴い、長期間の通行止めが必要となります。
- 4車線化により、対向車線への飛び出し事故防止による安全性の向上と、事故・大雪対応およびリニューアル(大規模更新)工事に伴う通行止めの減少など信頼性の向上が図られます。

重大事故の防止

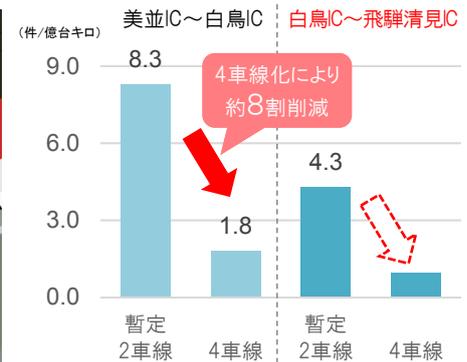
・暫定2車線区間では、対向車線への飛び出しなどにより、一度事故が発生すると重大事故となるとともに、通行止めのリスクが高くなります。

⇒4車線化により、中央分離帯を設置することで、対向車線への飛び出し防止による安全性の向上と事故対応のための通行止めリスクが低減します。



【対向車線への飛び出し事故】

■死傷事故率



※白鳥IC～飛騨清見ICの暫定2車線は、2015～2017年の平均
美並IC～白鳥ICの暫定2車線は2008年、4車線は2015～2017年の平均

大雪時の通行止めリスクの低減

・冬季に上り急勾配箇所では立ち往生し、走行不能となる車両が発生した際に、通行止めリスクが高くなります。

⇒4車線化により、車線が確保されると、走行不能車両のための通行止めリスクが低減します。



【大雪による狭い道路幅】



【走行不能車両による滞留】

維持管理および大規模更新工事への対応

・暫定2車線区間では、定期的な設備点検や補修工事の際に、通行止めが必要です。

・橋梁床板取替工事やトンネルの変状対策などでは、長期間の通行止めが必要です。

⇒4車線化により、車線が確保されると、点検・補修およびリニューアル(大規模更新)工事のための長期の通行止めが不要になります。



【通行止めによるトンネル内の点検】



【通行止めによる舗装補修工事】